

高卒者調査速報版

「高校卒業後の生活と意識に関するアンケート」調査 にご協力いただいた皆様へ

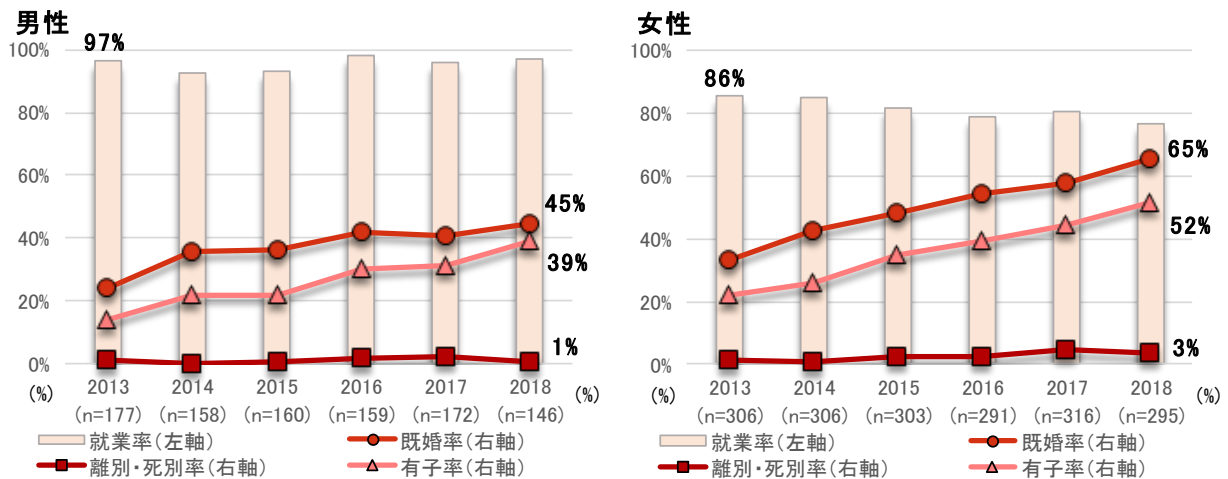
昨年の秋には、第14回「高校卒業後の生活と意識に関するアンケート」調査にご協力いただき、ありがとうございました。442名（調査時の年齢：32～33歳）の皆様から貴重なご回答をお寄せいただきましたこと、大変有り難く思っております。

遅くなりましたが、昨年度の調査結果の一部をお届けいたします。今回は、相談ネットワーク、子育て、また昨年度から皆様の配偶者・パートナーの方にも併せてご協力いただいております調査のお礼と結果について、まとめております。なお下記のサイトでは、より詳しい調査結果をご覧ください。ご高覧いただければ幸いです。

<http://csrda.iss.u-tokyo.ac.jp/panel/dp/>

皆様の高校ご卒業時から開始いたしました本調査も、これまで15回が終わり、本年度で16回目を迎える運びとなりました。皆様には長らく本調査へのご支援をいただいておりますこと、改めて深く感謝申し上げます。そして本年の調査にも、何卒ご協力たまわれまして幸いです。よろしくお願い申し上げます。

1. 2013年以降の生活状況の推移



既婚率と有子率が上昇 男女ともに、家族形成がさらに進行

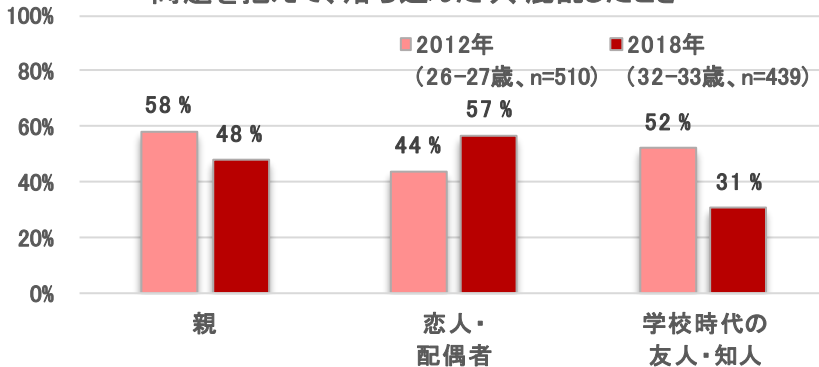
2013年から2018年までの6年間の、就業者、既婚者、離別・死別者、子どもがいる人の割合（有子率）を、男女別にグラフにしました。

まず男性については、就業率が90%以上で推移しながら、2017年には横ばいに推移した既婚率と有子率も、2018年にそれぞれ増加しています。他方、女性については、就業率が年々減少するなかで、既婚者の割合はおよそ3分の2に、そして有子率は半数以上にまで増加しています。

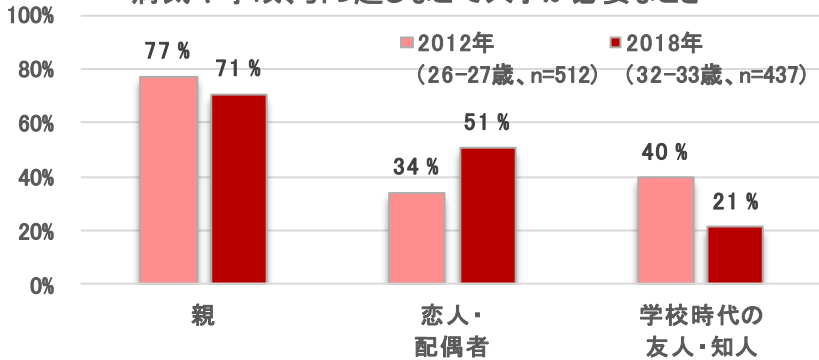
これらより、男女ともに結婚や親になることなどの家族形成がさらに進んでいることがうかがえます。

2. 相談ネットワーク

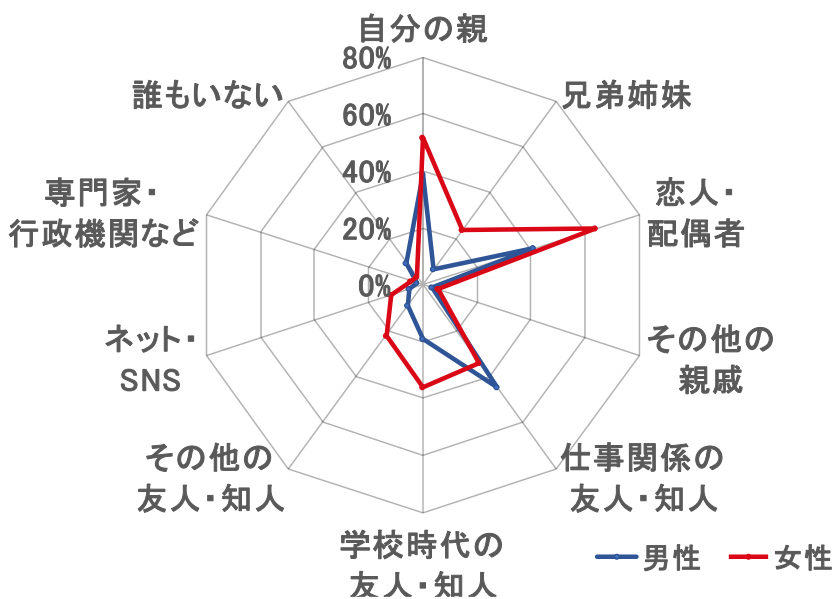
問題を抱えて、落ち込んだり、混乱したとき



病気や事故、引っ越しなどで人手が必要なとき



問題を抱えて、落ち込んだり、混乱したとき



相談相手が、親や学校時代の友人から、恋人・配偶者へ

普段の生活でどのような相談相手を想定しているのかについて、2012年（26～27歳時）と2018年（32～33歳時）での全体の回答を比較しました。

その結果、全体的な傾向として、相談相手として「親」「学校時代の友人・知人」が選ばれにくくなり、一方で「恋人・配偶者」が選ばれるようになっていました。

具体的には、「問題を抱えて、落ち込んだり、混乱したとき」の相談相手として、「親」を選ぶ人の割合は約10ポイント減少し、「学校時代の友人・知人」は21ポイント以上も減少しています。一方で、「恋人・配偶者」を選ぶ人の割合は約13ポイント増加しており、この傾向は「病気や事故、引っ越しなどで人手が必要なとき」についても同様です。

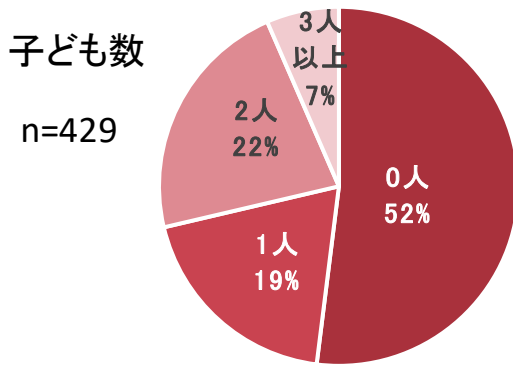
なお相談相手が増える背景には、親との別居や、結婚などの世帯形成の影響があることも推察されます。

男女で異なる相談ネットワーク

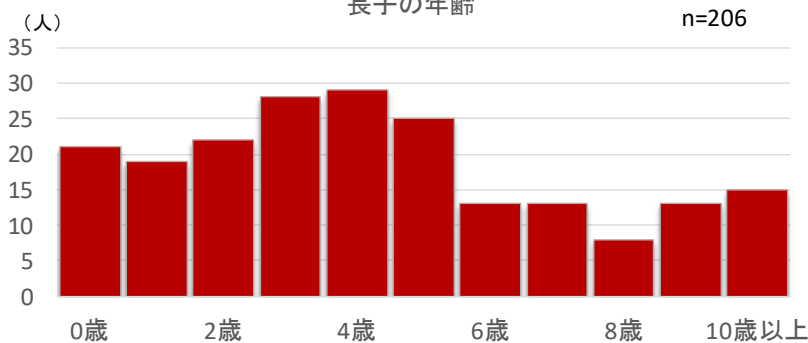
また、現在（2018年）の相談ネットワークの男女の差を表しているのが、左のチャート図です。これより、「問題を抱えて、落ち込んだり、混乱したとき」について、女性は男性に比べて「親」や「兄弟姉妹」、「恋人・配偶者」、さらには「学校時代の友人・知人」などを相談相手とする割合が高いことが分かります。一方で男性は、「仕事関係の友人・知人」を相談相手としている点に特徴が見られます。

3. 子どもの成長と子育て

子どもの数と長子の状況



長子の年齢



子どもがいる人が約半数を占め、小学生の子どもがいる人も

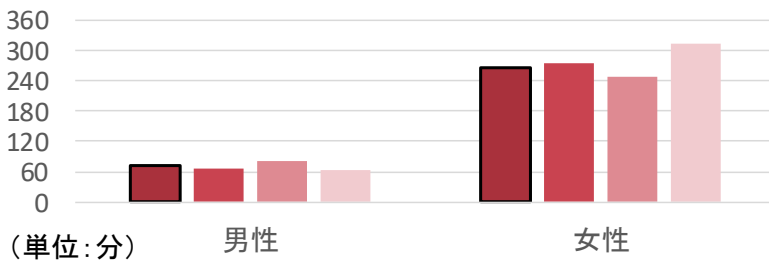
今回の調査では、子どもの有無、そしてそれぞれのお子さんの性別や年齢についてうかがいました。

子どもがいる人は48%を占め、2人の子どもがいる人が22%、3人以上が6.5%と、対象者の4人に1人が複数人の子どもを育てていることがわかりました。

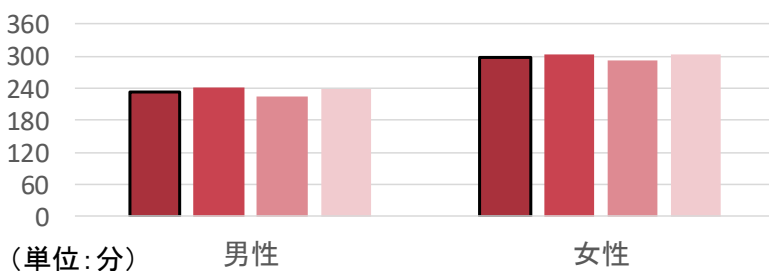
一番上のお子さんの年齢をみると、もっとも多いのは4歳前後ですが、0歳から10歳以上までそれぞれ一定数の回答があり、生まれたばかりの乳児から中学生まで幅広い年齢のお子さんがいらっしゃるということがわかりました。

平日・休日の子育て時間

子育て時間(平日)



子育て時間(休日)



子育て時間は、子どもの人数が増えても大きくは変わらない

子どもがいる人に、子どもと遊んだり世話をしたり、しつけるなど、子育てに使っている時間をうかがいました。

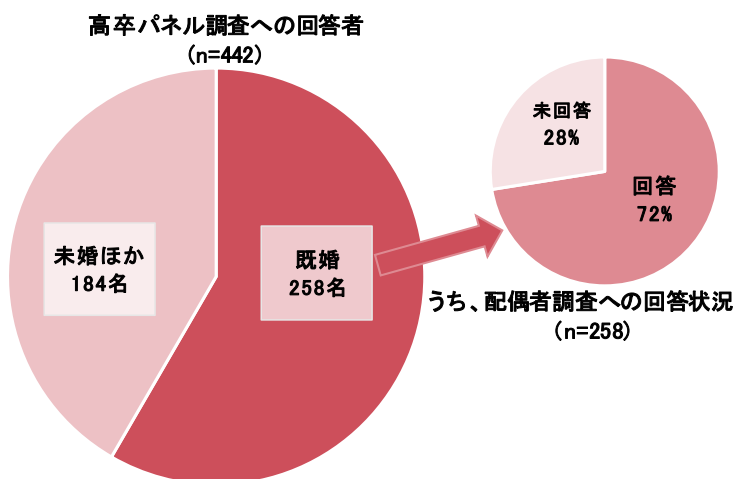
男性と女性で家事・育児に使う時間が大きく違うのはよく知られていることですが、女性には及ばないものの、休日は男性も多くの時間を子育てに使っていることがうかがえます。

子どもの人数が多いと、それだけ子育てに使う時間が増えるかと、子どもの人数別に子育てに使う時間を確認しましたが、子どもの数が多いほど、子育てに多くの時間を使っている、というような一貫した傾向は確認できませんでした。

配偶者・パートナーの方々への調査を始めました

いつも高卒パネル調査にご協力いただき、ありがとうございます。本調査も今年で16回目を迎えました。第1回目のときには高校3年生だった皆さまも30代の半ばとなり、結婚や出産などを経験される方が年々増加しています。これまでも皆さまのご回答から、結婚や子どもに関する意識と実態の変化などをご紹介してきましたが、前回の調査からは皆さまの配偶者の方やパートナーの方への調査を始めました。ご夫婦・カップルの双方からご回答をいただき、夫婦・家族の実態、直面している問題点や課題を掘り下げていきますので、同封の「結婚と日常生活に関するアンケート調査（第2回）配偶者票」を配偶者・パートナーの方々にお渡しいただけると幸いです。高卒パネル調査とともに、配偶者調査にもご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご回答へのお礼と結果

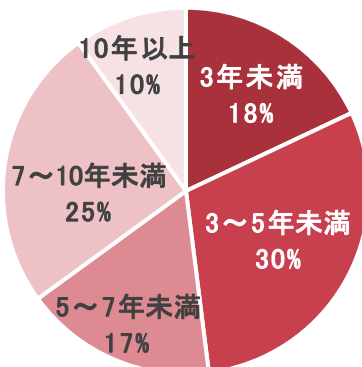


結婚している方のうち、7割の配偶者・パートナーの方が回答

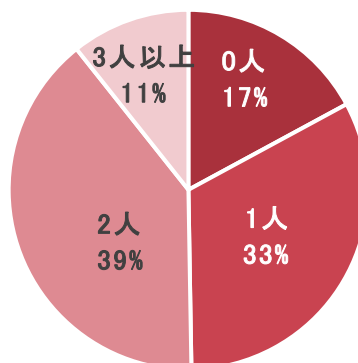
高卒パネル調査にご回答いただいた442名のうち、既婚者（事実婚も含む）は258名でした。そのうち配偶者調査にご回答いただいたのは187名（72%）でした。高卒パネル票と配偶者票をあわせて、計187組のペアデータを収集できました。皆さまのご協力に重ねてお礼申し上げます。

ご回答いただいたカップルの結婚年数と子どもの状況

結婚年数(n=187)



子ども数(n=187)



187組のカップルのうち、結婚5年未満が約半数、子どもありが約8割

ご回答いただいたカップルの結婚年数と子ども数をみってみました。結婚年数では「3～5年未満」が最も多く3割を占め、「3年未満」を合わせると約半数が結婚5年未満の比較的結婚期間の短い夫婦でした。その一方、10年以上のカップルも1割を占めています。また、カップルの8割に子どもがおり、その子ども数をみると最も多いのが「2人」の約4割、次いで「1人」の3割が続き、「3人以上」も1割を占めています。